ハイチへ義肢

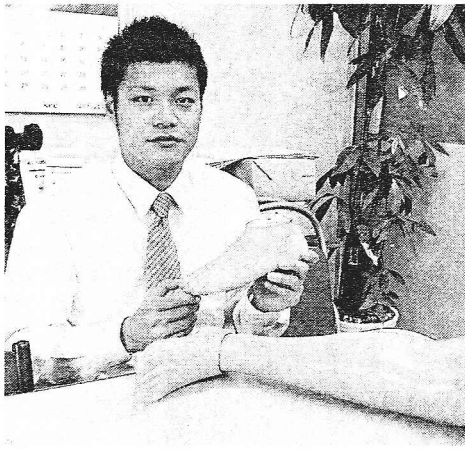
AMDA 隣国で支援

今年1月のハイチ大地震で手足を失った被災者を支援しようと、国際医療救援団体「AMDA」(本部・岡山市)が「義肢支援センター」を隣国のドミニカ共和国に設立する。日本国内に眠る義肢の中古部品を再利用し300人に無償提供する。こうした取り組みは日本の支援団体で初めて。センター長を務めるAMDAの八尾直毅さん(29)は28日午後、現地へ向け出発した。

ハイチ大地震では22万人以上が死亡し、約4000人が手足を失った。地震直後にAMDAが派遣した医療チームのメンバーは、手当てが間に合わずに手足を切断せざるを得なかった多くの被災者を見た。AMDAは義肢支援を検討。その時、義手や義足を作る義肢装具士の青年海外協力隊員として今年3月までドミニカ共和国で活動していた八尾さんと出会った。八尾さんは協力依頼を快諾しAMDAに加入した。

問い合わせは、八尾さんの恩師で熊本総合医療リハビリテーション学院義肢装具学科(096・389・1133)の小峯敏文さん。

【椋田佳代、写真も】



「交流しながら支援を進めたい」と話す八尾直毅さん=岡山市のAMDAで21日